

二戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

1. 総合戦略の目的

「二戸市人口ビジョン」で示した将来展望の実現に向けた基本目標や施策を示し、人口減少の抑制と地域経済の好循環の促進を図る。

「二戸市人口ビジョン」とは ※「二戸市総合計画」冊子 P70-71ページ

I. 趣旨

第二次総合計画「30年後の未来像」を基本とし、その実現に向けて人口動態の現状や特徴を整理・分析し、施策効果による将来像を施策効果による将来像を予測推計したもの。

II. 二戸市の人口動向と要因

(人口動向)

- ・10代後半～20代前半の転出超過が著しい
- ・合計特殊出生率は、単年度で1.50前後であったが、減少傾向(要因)

- ・産業構造の第一次産業から第二次、三次産業中心となり、首都圏等に多くの若者が流出
- ・若い世代の出生率低下傾向などにより、死亡が出生を上回る人口の「自然減」となった

- ・第一次産業の機械化が進み、労働力が抑えられるようになった
- ・高齢化が進み後継者不足で就業人口が減少
- ・雇用の受け皿や選択肢がなく、希望の職種がない
- ・若い世代の減少、出生率の低下

III. 将来に向けた基本的施策の方向性

- ★社会減の抑制 → 「雇用・所得」の確保 ◀相乗的に
- ★出生率の上昇 → 子育て支援 ▶実施

- 1 職場、地域、家庭などあらゆる場面での人づくり
- 2 若い世代の就労、結婚、妊娠、出産、子育ての支援
- 3 地域資源を生かした地域活性化

将来展望	①2045 (R27) 年に人口2万人
	②人口構造の若返り

IV. 将来展望の実現に向けた目標

- 1 合計特殊出生率の上昇 2030年 (R12) までに2.10に
- 2 雇用の場の確保による転出抑制 各後の年代の移動率を、社人研※移動率の仮定値から4割縮小
- 3 子育て世代の転出抑制と転入促進 20～40歳の移動率を、2030年 (R12) にはゼロに均衡

⇒ 推計後の2045年 (R27) 推計値
人口 20,864人 (参考：当時の社人研推計…約18,000人)
高齢化率 37.2% (参考：同上…約43%)

2. 第二次総合計画との関係

総合戦略は、国及び県のまち・ひと・しごと創生総合戦略を勘案するとともに、総合計画の人口に関連する部分を「人口減少の抑制」という視点から体系化したもの。

3. 計画期間

平成27年度から令和2年度の6年間 (令和2年3月26日、計画期間1年延長) → 第2期 令和3年度から7年度までの5年間

4. 総合戦略の構成

国が示した4つの基本目標ごとに、「施策に関する基本方向」「具体的な施策と重要業績評価指標 (KPI)」等を示す。

5. 事業効果の検証等

基本目標に数値目標を設定するとともに、施策の効果を客観的に検証できる指標を設定し、PDCAサイクルにより必要な改善等を行いながら目標達成を目指す。

進捗状況や評価・検証の結果等を公表することで、市民参画による施策の推進を図る。

◎第1期二戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(H27～R2)

※「二戸市総合計画」冊子 P72-73ページ

基本目標Ⅰ 安心して働けるしごとをつくる

- 施策1 地域資源を活かした産業振興と創業支援の推進
- 施策2 新たな産業創出と地域が潤う経済循環の確立

基本目標Ⅱ 新しい人の流れをつくる

- 施策1 「産業」と「人」で魅せる交流の推進
- 施策2 芸術・文化・スポーツによる連携・交流の推進
- 施策3 移住・定住の推進

基本目標Ⅲ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 施策1 安心して子育てできる環境の充実
- 施策2 地域に愛着と誇りを持てる教育の推進

基本目標Ⅳ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る

- 施策1 小さな拠点形成による地域活性化の推進
- 施策2 安心して暮らせる地域コミュニティづくりの推進
- 施策3 自然と共存する基盤整備の推進

(参考) 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

- 1 地方における安定した雇用を創出する
- 2 地方への新しい人の流れをつくる
- 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する

◎第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(R3～7)の概要

第1期における数値目標の対する実績を分析するとともに、国や県の第2期総合戦略等を勘案しながら、「人づくり」に重点を置いた施策展開を行うため、次の基本目標を設定し、後期基本計画の施策と整合性を図る。
なお、時代の変化に対応しながら、基本目標の着実な達成と、人口ビジョンの将来展望の実現に近づくため、「横断的な目標」を追加する。

【4つの基本目標】

- 基本目標Ⅰ 安心して働くことができるまち
- 基本目標Ⅱ 新しい人の流れができるまち
- 基本目標Ⅲ 結婚や出産、子育ての願いがかなうまち
- 基本目標Ⅳ 人が集い、安心して暮らせる魅力のあるまち

【横断的な目標】

- あらゆるひとが活躍するまち
(地方創生に向けた、多様な人材の活躍支援)
(誰もが活躍できる地域社会の推進)
- 新しい時代の流れを力にするまち
(地域におけるSociety5.0の推進)
(SDGsの達成に向けた取り組みの推進)

(参考1) 国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

【目指すべき将来】

- ・将来にわたって「活力ある地域社会」の実現
- ・東京一極集中の是正

【基本目標】

- 1 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする
- 2 地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくる
- 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 4 人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

【横断的な目標】

- ・多様な人材の活躍を推進する
- ・新しい人の流れを力にする

★後期基本計画との関係性

後期基本計画の各施策との再整理を行うとともに、後期基本計画における「新しい視点」に立った施策展開について体系化する。

後期基本計画における「新しい視点」に立った事業展開と、人づくりに特化特化した施策を横断的に推進する。

(参考2) 第2期岩手県ふるさと総合振興戦略

【全体の推進目標】

様々な「生きにくさ」を「生きやすさ」に転換し、生活の満足度の向上を目指す

【4本の柱】

- 1 岩手で働く
- 2 岩手で育てる
- 3 岩手で暮らす
- 4 岩手でつながる

【ふるさと振興を進める上で重視する視点】

- 1 ふるさと振興と一体となったSDGsの推進
- 2 Society5.0の実現に向けた技術の活用
- 3 地域全体を見渡した地域マネジメントの推進